

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・11月号・付録
2013年11月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL (03) 5379-5521 / FAX (03) 5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・橋本 隆

第51回上期ギャラクシー賞 各部門受付中

— 9月理事会報告 —

2013年9月24日、9月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田編集長

・本日11月号の最終の校正作業を終了した。表紙は吹石一恵さん、ザ・パーソンは南海放送の伊東英朗さん。特集は「何が魅力? B SテレビのCM市場」。

・17日に委員会を開催して今後の特集などについて討議した。12月号の特集は「2013年ヒットドラマの秘訣を探る」で、表紙は池内博之さん。ザ・パーソンはイラストレーターのキン・シオタニさん。2014年1月号は自民党が秋の臨時国会に提出予定の秘密保全法案について特集する予定だが、今後の動きによって内容が変わる可能性がある。2月号はラジオを

特集する予定。

◇選奨事業委員会 藤久委員長

〈テレビ委員会〉中町副委員長

・7月29日に7月度の月評会を開催して、「みんな! エスパードよ!」(テレビ東京)「クロースアップ現代 激増する野生動物」(NHK)「戦後史証言プロジェクト 日本人は何をめざしてきたのか」(NHK)「古田新太」の4本を選んだ。また、8月30日に8月度の月評会を開催して、「NHKスペシャル 調査報告 日本のインフラが危ない」「テレメンタリー2013 僕はまだまだ死にません」(広島ホームテレビ)「NHKスペシャル 終わりになき被爆との闘い」「ザ・スクープスペシャル 原発と原爆」(テレビ朝日)を選んだ。7月度と8月度の月間賞に

ついでの説明。9月度の月評会は10月2日に開催する。

・ギャラクシー賞上期の応募数。

9月6日締め切り分は115本で、昨年とほぼ同じ。現在視聴作業中。

〈ラジオ委員会〉桜井委員長

・8月19日に定例会を開催した。

聴取したのは山陰放送の「自由ほんぽーおしゃべり本舗」で、制作費の少ない中、様々なコーナー企画を立てていた。

今年のギャラクシー賞入賞作品を

聴いて、語り合う会は11月下旬開催を目標に調整中。

〈CM委員会〉五井委員長

・7月25日、8月25日に定例会を開催した。最近景気が良くなったのか、公共広告を見なくなったのはと話題になった。

〈報道活動委員会〉鈴木委員長

・11月9日に「ギャラクシー受賞作を見て、制作者と語る会」を日大で開催する。今年は大賞の南海放送、優秀賞の沖縄テレビ、福島放送の受賞者が出席する予定。

◇企画事業委員会 確井委員長

・10月8日に委員会を開催予定。来春のシンポジウムの企画を持ち

寄る予定。基本的には今年のやり方を踏襲する。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・7月度の月間ノミネート作品1位はダントツで「半沢直樹」だった。8月度はジャーニーズ関係の作品になりそう。

2. その他

①「ギャラクシー賞50年史」進捗状況 中島事務局長

・9月13日に委員会を開催した。第41回から50回までのデータを1000部印刷にした場合の見積が、70から80万円なので、紙ベースにすることを決定した。非売品として正会員と維持会員に無償配布する予定。検索を入れるかどうかが課題だが、入れる方向を目指す。現在校正作業中で11月末の完成を予定している。・「放送批評の50年」は130冊売れた。

②就業規則変更の件 中島事務局長
・就業規則の賃金の項目で変更したい箇所がでてきたので、社会保険労務士と相談して、若干改訂の予定。これについて意見交換の結果、理事の方々のアドバイスを入れた文章を

作成し、再度、社会保険労務士と相談して次回の理事会に提出する。

③清水英夫さんお別れの会

・10月21日に放蕩などNPO団体が集まって青学会館アイビーホールで「清水英夫さんを語る夕べ」を開く。「GALAC」連載「少数異見帳」の全採録冊子を作成、出席者に配布の予定。

・先に9月21日に行われた「清水英夫さんおわかれの会」では「少数異見帳」の一部を掲載したメモリアルブックが配布されたが、この転載を許可した。

④退会の件

大橋正房さん、三國游さん

次回以降の理事会

10月23日(水)

11月25日(月)

12月19日(木) 18時開始

【出席】音好宏、橋本隆、飯田みか、

藤久ミネ、碓井広義、桜井聖子、五

井千鶴子、鈴木嘉一、滝野俊一、石

井彰、川喜田尚、小林毅、坂本衛、

嶋田親一、田中早苗、中町綾子、稗

田政憲、中島好登

会議記録

〔8月〕

19日

20日

28日

30日

〔9月〕

13日

17日

24日

25日

27日

(選奨) ラジオ定例部会

出版編集委員会

(選奨) CM定例部会

(選奨) テレビ月評会

(50周年) G賞50年史

出版編集委員会

理事会

(選奨) ラジオ定例部会

(選奨) CM定例部会



全ドラマを熱く冷静に見ています

木村隆志

これまで記者として、数え切れないほどテレビ番組の制作現場取材してきました。その後、コラムニストになってからは、評論や分析なども手がけています。

変わらないのは、重度のテレビウォッチャーであること。朝から深夜まで一日平均10〜15時間、しかも2つのモニターで同時視聴したり、録画映像を1・4倍速で再生したり、とにかくテレビ漬けの毎日です。

特に寄稿の多い連続ドラマは、毎クール全作品を視聴。目を凝らし、耳を澄まして、演出や脚本の全てを理解しようと心がけています。それだけに高視聴率の作品に追随したただけ、あるいはSNSを過剰意識した演出には、残念な思いをすることも。

各局・各番組のスタッフさんや演者さんの苦労は理解しているつもりですが……たつぷりの愛情を持って、私の立場だからこそ、のエールを送ってあげたいと思っています。

また、みなさんにお会いできる日を心から楽しみにしています。

新入正会員自己紹介

制作者から研究者の道へ、たいま移動中

金廷恩

韓国では放送作家としてテレビ番組の制作に携わっていました。制作過程で深く考えずに行ったことが時に視聴者に大きな影響を及ぼすことに気づき、テレビ制作者の重要性を痛感しました。それでアカデミックな世界ではテレビ制作者がどのように取り上げられているのか知りたくて日本の大学院に留学しました。修士論文は韓国のテレビ制作者たちが日本のテレビから取り入れたものは何だったのかについてで、博士論文では日本と韓国のテレビ制作者を通して両国のテレビジャーナリズムの形を比べてみたいと思います。特に日本のテレビ制作者がより商業主義が強調される制作環境のもとどうやってジャーナリストとしての役割をはたしているのかに興味があります。今の時代こそテレビジャーナリズムがもっと重要視されるべきだと思うからです。しかし、好きな番組はPTAが嫌がる低俗なバラエティ番組です。韓国では考えられない自由な作りが面白いからです。

新入正会員自己紹介

志賀さんの遺志を継ぎます

隈元信一

1953年10月23日生まれです。そう自己紹介したら、まさに破顔一笑、すぐ親しくなった人がいました。昨年亡くなった志賀信夫さん。放送批評懇談会の生みの親です。2まわり上の巳年で、同じ誕生日。縁を感じつつ、日本各地や韓国、中国で酒を何度くみかわしたことが。

私は、新聞記者11年目の89年春に放送担当になりました。「批評がないところに文化は育たない」。思いは志賀さんと全く同じでした。

「放懇の会員になってくれるね」「いえ、どんな団体でも、インサイダーになると、褒めてもけなしても色眼鏡で見られますから」

若かったと言うべきでしょう。当時は、すぐにでも会社を辞めるつもりでもあったのです。その後、放送の取材を続けて25年、この10月23日で定年になります。

「遺言は、残った者が担うしかない」。志賀さんの追悼記事にそう書いた以上、遺志を継ぐしかありません。よろしくお願いします。

